

## 「昔の生活・生産用具」を生かした授業例

1. 単元名 3年「かわってきた人々の暮らし」「むかしの暮らしをしらべる」

### 2. 小単元の目標

- (1)身のまわりにある道具は、時代によって移り変わってきたことや、古い道具には昔の人の知恵や苦勞がこめられていることに気づくことができるようにする。また、地域の人々の暮らしと昔と今との違いや、暮らしの移り変わりの様子を理解できるようにする。
- (2)昔の道具の使い方や使われていた時代を調べたり、実際に使ったりすることを通じて、昔の暮らしの様子について考えることができるようにする。また、地域の博物館などを進んで利用することができるようにする。

### 3. 指導計画（総時数27時間）

- (1)学習計画……………2時間
- (2)むかしをしらべる……………9時間（本時5／9 6／9）
- (3)暮らしのうつりかわり……………10時間
- (4)つたえる人うけつぐ人……………6時間

### 4. 本時のねらい

博物館で昔の道具を調べたり、機織り機の使い方を体験したりして、昔の生活の様子について考えることができる。

### 5. 博物館資料について

○原町市博物館には、相馬地方の古い生活用具、生産用具が数多く収集されている。この单元においては、古い道具を実際に見たり、使用したりして、昔の生活についての関心を高めていくことをねらいとしている。家庭や学校にある資料で十分でなかったものやもっと調べてみたい分野について課題意識を持ち、博物館の豊富な資料で更に調べていくことは、この時期の児童にとって大切な学習活動である。

- ・生活用具（衣食住に関わるもの）  
素材、使用法など、今の道具との違いに着目させていく。
- ・生産用具（稲作、養蚕、鮭漁に使うもの）  
家庭や学校ではなかなか収集できない道具が揃っている。素材や動力、使用法について、調べさせていく。
- ・「機織り機」を実際に使用させる活動を位置づけ、昔の道具や生活について、具体的なイメージを深めることができるようにする。